

# 昭和の家族人形リスト

No.	タイトル	メッセージ	人形数	制作年
1	祈り	遠く過ぎ去りし日々 <span style="font-size: small;">に想いを重ね 子や孫の幸せを願い 手を合わせる ばあちゃんのいつもの習慣</span>	1	2010
2	しょうぎ	子どもだって真剣勝負 もう一回、さらにもう一回と繰り返すうち、あつという間に日が暮れる	3	2009
3	しじみ売り	はっぴ 法被姿に天びん棒かつぎ 今日も聞こえる威勢のいい声 「しじみ〜」「しじみ〜」	1	2009
4	井戸端で	たらいに洗濯板、ごしごし洗う。 野菜を洗いに来る。 水を汲む。 井戸端は、話 <span style="font-size: small;">に花が咲き、交流の場にもなっていた。</span>	1	2008
5	夕やけこやけで日が暮れて	今日も元気に働いた。 こども達の合唱を背 <span style="font-size: small;">に受けながら、大八車を引く手に力がこもる。</span>	4	2010
6	子守り	弟を背負いねんねこ半てんをはおる。 背中に感じるたしかな重みと温かさ 上の子が下の子の面倒をみるのは当たり前のことだった。	2	2009
7	ねんねんころり	祖母の肩越しに見える世界と 祖母のまなざしを通した世界 それぞれどんな景色が映っているのだろうか。	2	2009
8	ひなたぼっこ	おてんとさまがほほ笑んだ 暖かい日だまりで まあい背中 <span style="font-size: small;">のばあちゃんと 二人並んでひなたぼっこ 優しい空気に包まれて 時間もゆっくり流れていた あのころ……</span>	2	2010
9	ベーゴマ	相手のコマをはじき飛ばすと勝ち ヒモの巻き方にもコツがあり、コマのへりの削り方にも工夫をこらす	3	2009
10	かあちゃんよんで	やさしい母 <span style="font-size: small;">の声で読み聞かせ、 幼いころにしっかりと結ばれた 母子(おやこ)の絆は、強い魂を育てる</span>	5	2007
11	おうまさん	やれやれ、可愛い孫でも 子守りはやっぱり疲れるわい これもまた、幸福のひとつのかたち	3	2010
12	あたらしい家族誕生	あたらしい命、神様からの贈りもの この子たちに明るい未来がありますように 普遍的な愛と絆で、命をつないで、つないで。  「あなたは、この家族に何色を重ねますか？」	8	2009
13	床屋は母ちゃん	「トラ刈りにしないでよ」 「はい はい」 「母ちゃんうまいから大丈夫」 大好きな母ちゃんがバリカンで髪を刈ってくれる 母の愛情を栄養にして、子供たちは健やかに成長していく	3	2009
14	まりつき	あんたがた どこさ〜 ひごさ〜 ひごどこさ 足を上げたり、ぐんぐんせたり 女の子たちの 心も鞠もはずんでいる	5	2009
15	或る夏の日	西瓜(すいか)は夏の風物詩 縁側は社交の場でもあった みんなで食べるとおいしいね	9	2008

16	アイスクャンデー屋	ジイ、ジイ、ジイ～ 蝉の声、 5円玉を握りしめキャンデー屋さんの 鐘の音を心待ちにした 夏の日の屋下がり	3	2009
17	たき火	おいでよ おいで 寄っといで 焼き芋ができたぞ！ じいちゃんの話もおもしろいよ みんなで食べる焼き芋の味は格別だ	9	2010
18	泣いちゃった	泣かずつもりはなかったんだ 今も残っている ほろにがく甘酸っぱい思い出 あの子はどうしているのかな	2	2009
19	チャンバラ	男の子は みな剣豪(けんごう)気取り 幼い子も 大きな子も 日暮れまで本気で遊んだ チャンバラも子供なりのルールがあつて	6	2009
20	馬とび	男の子、女の子 上に乗る子も、馬の子も くずれない絆があつた	8	2009
21	カミナリおやじ	「コラー！」「ごめんなさい」 どこにもいた こわいおじさん げんこつに隠された深い愛情に気づくのは、 いたずら小僧が大人になってからだ	5	2009
22	駄菓子屋	駄菓子屋は、 子供たちのたまり場であり おしゃべりを楽しむ憩いの場 買ったお菓子をその場で食べるのも楽しみのひとつ	6	2009
23	ちゃぶ台囲んで	「おとうちゃん～！ あのね 今日ね」 向き合ってくれる父と母 やさしいまなざしの祖父母 心が一つ ほっこり 食事どき	8	2009
24	天気を読むおじいちゃん	山の上を流れる雲 色・形・風のおい じいちゃんの勘(かん)が働く 明日は嵐が来るぞ！	1	2010
25	どうしたの？	誰か待ってるの？ 何か困ったことがあるの？ さびしいの？ 話してごらん	1	2010
26	肩たたき	老いてなお、 凜(りん)として生きる祖父の背に やさしい孫の手のぬくもり	3	2009
27	母ちゃんのところまで もうちょっと	母ちゃんの側(そば)にいたいのに 母ちゃんはいつも忙しそう あと少しで行ける もうちょっとで…	1	2010
28	たそがれ	ともに生きた 空気のような あうんの呼吸	2	2009
29	流し雛	旧暦3月3日 やわらかな春の日差しに包まれて 少女たちは棧(さん)だわらに乗せた紙びなを川に流す。 鳥取、用瀬(もちがせ)に今も残る春の風物詩 古(いにしえ)から伝えられてきた雅(みやび)やかな風習を 手から手へつなぎながら 人は未来へ希望を託す。	10	2010
30	新聞少年	雨の日も 大風でも 冬の凍りつくような雪の日でも 少年は街を走る。 一軒、一軒配りながら 「いつかは、きっと！」大志を抱く。 このころ、新聞少年はたくさんいた。	1	2010

31	負けるもんか	何でもないことから取っ組み合い けんかが始まる 殴り殴られ そして痛さを知り手加減を覚える 喧嘩の方法や人とのつきあい方を学ぶ	2	2010
32	用務員さん	「ウェーン痛いよう」 「どれどれ赤チンかヨウチンかどっちをつけよう？ 男の子ならそれぐらいで泣くんじゃないぞ」	2	2010
33	おつかい	頼りないところもあるけれど 本当はやさしいお兄ちゃん 幼い妹だけど ほんとはしっかりしてるんだ	2	2009
34	今日は何して遊ぼうか	放課後は楽しい時間 塾もお稽古もない さあ、今日は何して遊ぼうか	2	2010
35	寝ちゃったよ	待ちくたびれたんだね 寝てしまったよ さあ帰ろう！ おんぶしてあげるよ	1	2010
36	ちょっと一服	天気はいいし仕事もはかどった やれやれちょっと一服 気分も上々	1	2010
37	田んぼでお乳	秋の陽射しにつつまれて 田んぼであげるおっぱいは スクスク育てと願う 母さんの汗の味	2	2010
38	悔しいかい	悔しいだろう 悲しいだろう 辛いだろうね でものりこえられるよ 君なら そして 本当の強さ 優しさが分かる人になっていくんだよ あの時があって良かったって思えるようになるさ ずっと後になってから	1	2010
39	本が大好き	父ちゃんも 母ちゃんも みんな忙しいから 妹の子守りは 私の役目 肩にズッシリ重いけど 私は本が大好き！	2	2010
40	雨の日のおむかえ	兄ちゃん、傘を持っていかなかったから おむかえにきたんだけど 薄暗くなってきた どうしよう なんか心細い	1	2010
41	ぼくも立派な働き手	薪(たきぎ)の束を背負って帰る少年 こうして家族の手伝いをしながら 子どもたちは 一人前に成長していった	1	2010
42	うるさいお婆ちゃん	「そげなことしたらいけん！」 「あぶない！もう止めんさい」 どこの子でも本気で叱る こんなお婆ちゃんはもういなくなった	1	2010
43	鼻たれこぞう	「兄ちゃんはどこに行ったんだろう いっしょに遊んでやるって言ったのに」 グズン、ズルズルー	1	2010
44	魚屋さん	「おかあちゃんが煮付けにするからって」 「あいよっ！」 時間になると自転車でやって来る街の魚屋さん 素早く魚をさばくその手際のよさに憧れた	2	2010
45	泣く子	お泣きなさい おもいっきり そのうち 泣きたくても 泣けなくなるから	1	2010